

I 普通作物

1. 水稻

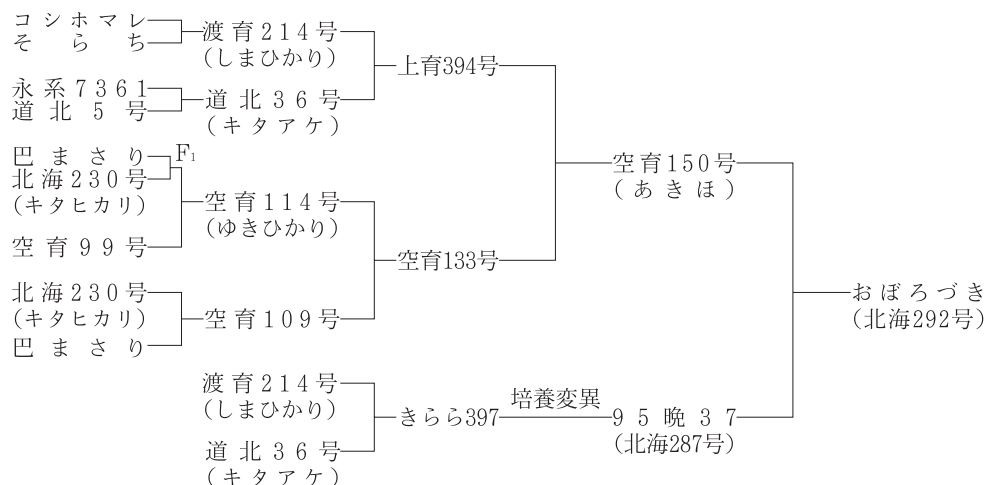
< 梗 種 >

- (1) おぼろづき (系統名 北海292号) 2005年
 登録番号：(北海道) 水稻北海道うち第56号
 (農水省) 水稻農林389号
 (種苗法) 第14033号

セールスポイント

アミロース含有率が低く炊飯米の粘りが強く柔らかいため、食味官能試験の評価は非常に高く良食味である。

来歴 本品種は1995年に農林水産省北海道農業試験場において、良質・耐冷性の低アミロース品種育成を目標として、「空育150号」(のちの「あきほ」)を母、「きらら397」の低アミロース培養変異系統である「95晩37」(のちの「北海287号」)を父として人工交配を行った雑種後代から育成された。1998年に「札系98020」, 2000年より「北海292号」の系統名で各種の試験を行い、2005年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「ほしのゆめ」より短く「きらら397」並である。穂長は「ほしのゆめ」, 「きらら397」よりもやや長く, 穂数は「ほしのゆめ」, 「きらら397」よりも少なく, 草型は穂数型である。一穂粒数は「ほしのゆめ」よりやや多く, 「きらら397」並である。粒着密度は「ほしのゆめ」, 「きらら397」より疎のやや疎である。ふ色, ふ先色は黄白で, 稀に短芒を有する。玄米の形状は, 「ほしのゆめ」並のやや長で, 粒大は「ほしのゆめ」より大きく「きらら397」並のやや大である。粒厚は「きらら397」より薄く, 「ほしのゆめ」並である。割粳の発生は, 「ほしのゆめ」, 「きらら397」より少ない。
2. 出穂期, 成熟期は「ほしのゆめ」並からやや遅く, 「きらら397」よりやや早い中生の早。耐倒伏性は「ほしのゆめ」より強い中～やや強である。
3. 穂ばらみ期耐冷性は「ほしのゆめ」と同ランクの強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pii*, *Pik* と推

- 定され, 葉いもち圃場抵抗性はやや弱, 穂いもち圃場抵抗性は中である。玄米千粒重は「きらら397」よりやや軽く, 「ほしのゆめ」並であり, 玄米収量は「きらら397」より低く「ほしのゆめ」並からやや低い。
4. 玄米は腹白, 乳白が少なく良質である。白米アミロース含有率は, 「ほしのゆめ」, 「きらら397」より低く, 「あやひめ」より高い。米粒の白濁程度は「あやひめ」や他の北海道の低アミロース品種より低い。白米蛋白質含有率は「ほしのゆめ」, 「きらら397」よりもやや高い。玄米白度, 白米白度は「ほしのゆめ」にやや劣る。食味は, 粘り, 柔らかさが「ほしのゆめ」, 「きらら397」より高く, 総合評価は「ほしのゆめ」より優る。

栽培適地と奨励態度

上川 (土別以南), 留萌 (中南部), 空知, 石狩, 後志, 日高, 胆振, 渡島および檜山各振興局管内に「ほしのゆめ」の一部と「きらら397」の一部に換えて栽培する。

栽培上の注意は、粒厚が薄いので、粒厚選別には適切な篩い目を用いる。いもち病抵抗性は十分ではないので、適正な防除に努める。高い食味水準を維持するため、多

肥栽培や蛋白質含有率の高くなりやすい土壌での作付を避ける。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
北 農 試	おぼろづき	8. 1	9.19	66	16.9	589	467	93	21.1	1下	2000~2004
	ほしのゆめ	8. 1	9.19	70	15.7	681	502	100	21.3	2上	
	きらら397	8. 2	9.23	66	15.9	631	535	107	21.8	1下	
中 央 農 試	おぼろづき	8. 2	9.19	64	17.6	714	531	99	21.8	2上	2000~2002, 2004
	ほしのゆめ	8. 2	9.17	68	15.5	739	538	100	21.9	2上	
	きらら397	8. 3	9.20	64	16.7	690	551	102	22.8	1下	
上 川 農 試	おぼろづき	7.26	9.11	62	17.2	740	516	106	21.5	2中上	2000~2004
	ほしのゆめ	7.26	9.11	63	14.8	777	493	100	21.6	2上	
	きらら397	7.27	9.13	61	16.2	764	530	106	22.3	2上	

- 参照 1) 北海道農政部編, 平成17年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2005)
2) 安東郁男 等, 北海道農業研究センター研究報告, 186, 31-46 (2007)

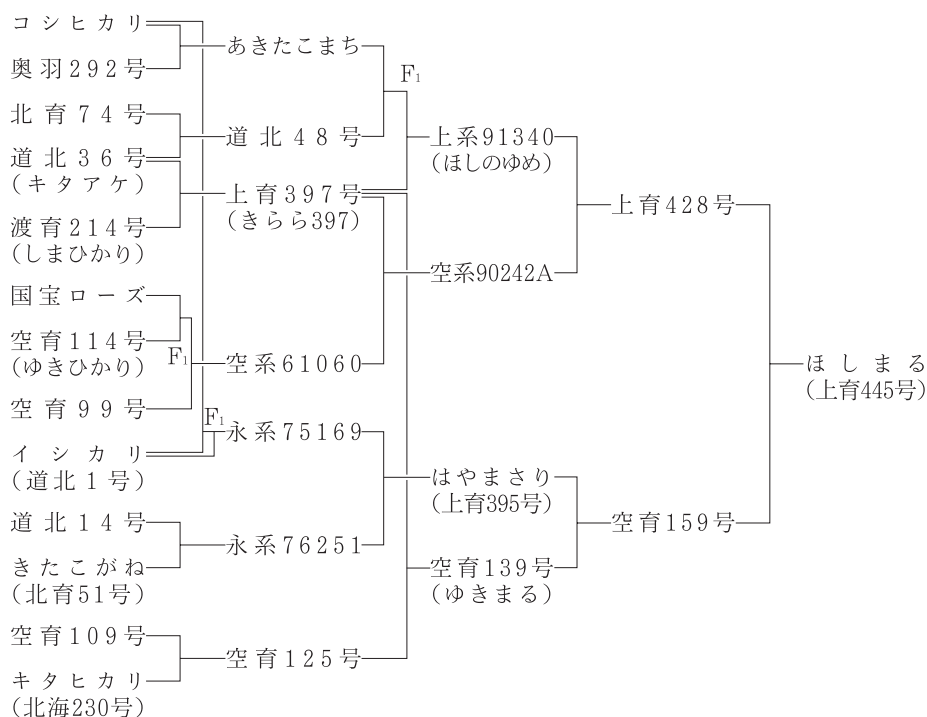
(2) ほしまる (系統名 上育445号) 2005年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第57号
(農水省) 水稻農林368号
(種苗法) 第11231号

セールスポイント

出穂が早く、成熟期は早生の晩であり、北海道中央部での直播栽培も可能である。また、「ほしのゆめ」並みの良食味で、耐冷性が強く多収である。

来歴 本品種は、1997年に北海道立上川農業試験場において、直播・良食味品種の育成を目標に、中生・良食味系統の「上育428号」を母、極早生直播用系統の「空育159号」を父として人工交配を行った雑種後代から育成されたもので、F1を株式会社北海道グリーンバイオ研究所において薬培養に供試したのち、2000年より「緑系00205」、2002年より「上育445号」の系統名で各種試験を行い、2005年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次の通りである。



特性概要

1. 穂長は移植栽培では「ゆきまる」並で「ほしたろう」よりやや長い中、直播栽培では「ゆきまる」より長い。穂数は移植栽培では「ゆきまる」よりやや多く、「ほしたろう」並の多、直播栽培では「ゆきまる」並。

ふ色およびふ先色は黄白で、極短芒を極稀に生じる。脱粒性は難である。粒着密度はやや疎である。

2. 玄米の粒厚は「ゆきまる」、「ほしたろう」より厚い。玄米千粒重は「ゆきまる」、「ほしたろう」より重い。割削の発生は「ゆきまる」より多いが、「ほしたろう」、「ほしのゆめ」より少ない中である。

3. 出穂期は移植栽培では「ゆきまる」より2日、「ほしたろう」より3日程度早い早生の早で、直播栽培では「ゆきまる」と同程度で早生の晩である。

成熟期は移植栽培では「ゆきまる」並で、「ほしたろう」より2日程度早く、直播栽培では「ゆきまる」より1日程度遅い早生の晩に属する。

耐倒伏性は「ほしたろう」に優り、「ゆきまる」よりやや劣る中～やや強である。障害型耐冷性は「ゆきまる」、「ほしたろう」に優る強である。出穂遅延型耐冷性は「きらら397」よりやや劣るやや強である。

いもち病真性抵抗性遺伝子型はPia, Piiと推定され、葉いもち圃場抵抗性は「ゆきまる」より劣り、「ほしたろう」並のやや弱である。穂いもち圃場抵抗性は、「ゆきまる」並で、「ほしたろう」よりやや強い中である。低温苗立ち性は「ゆきまる」、「きたいぶき」並である。

4. 玄米収量は移植栽培では「ゆきまる」より8%ポイント程度、「ほしたろう」より5%ポイント程度多収である。直播栽培では玄米収量は「ゆきまる」より明らかに優る。

玄米の品質は「ゆきまる」よりやや劣る。食味は移植、直播栽培とも移植栽培の「ほしのゆめ」と同程度に良好である。

栽培適地と奨励態度

オホーツク、上川、留萌、空知、石狩、後志、日高、胆振、渡島および檜山各振興局管内に、直播栽培も可能な品種として「ゆきまる」、「ほしたろう」の全てと栽培条件の厳しい地帯の中生品種に置き換えて作付けする。栽培上の注意は、出穂期が早生で早期異常出穂や苗の徒長の恐れがあるので、成苗移植栽培では育苗時の適正な管理に努める。初期の分けつ性がやや劣り穂数確保が難しい傾向にあるので、側条施肥などにより初期生育を促進する。直播栽培においては苗立ちが劣る場合があるので、塩水選などの種子準備や落水出芽における水管理に十分留意する。大粒であるので移植、直播栽培とも播種時には適正な播種密度になるように機械を調整する。直播用種子の採種にあたっては、「汎用コンバインによる水稻直播用種子の収穫技術（平成15年普及推進事項）」を遵守する。直播栽培を行う地帯は、「落水出芽法を用いた水稻直播栽培の安定多収技術（平成16年普及推進事項）」における「ゆきまる」の栽培適地とする。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	ほしまる	7.23	9. 8	58	15.8	736	499	108	23.8	2中上	2002~2005
	ゆきまる	7.25	9. 9	58	15.7	715	463	101	21.0	2上	
	ほしたろう	7.26	9.10	58	14.8	760	482	105	22.1	2中上	
	ほしのゆめ	7.26	9.10	60	14.8	762	463	101	21.3	2上	
中 央 農 試	ほしまる	7.29	9.16	56	15.6	791	488	109	23.5	2下	2002~2005
	ゆきまる	7.31	9.17	54	14.8	774	447	100	20.9	2上	
	ほしたろう	8. 5	9.21	62	15.6	778	513	115	22.1	2中	
	ほしのゆめ	8. 5	9.22	65	14.9	790	493	110	21.5	2中	
道 南 農 試	ほしまる	7.25	9. 9	65	16.9	550	440	111	23.1	1中	2004,2005
	ゆきまる	7.25	9. 8	60	15.7	574	398	100	20.3	1中	
	ほしたろう	7.31	9.15	71	17.7	605	438	—	21.8	2中	
	ほしのゆめ	7.29	9.12	70	18.9	636	467	117	21.1	1中	
北農研センター	ほしまる	7.26	9.14	65	17.2	672	523	117	22.8	2上	2002~2005
	ゆきまる	7.29	9.14	61	15.6	581	448	100	20.5	1中	
	ほしたろう	7.31	9.18	68	16.1	645	560	125	21.9	1下	
	ほしのゆめ	8. 1	9.19	70	15.7	720	544	122	21.2	1中下	

注) 移植栽培による成績

試験場名	品種名	苗率 %	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10aあたり		玄米		試験年次
					稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上川農試	ほしまる	72	8.3	9.23	63	15.2	886	471	114	23.0	2中下	2002~2005
	ゆきまる	74	8.3	9.22	56	13.7	862	413	100	20.6	1中	
	きたいぶき	72	8.3	9.22	60	13.5	915	451	109	20.2	2上	
中央農試	ほしまる	59	8.6	9.19	65	15.7	930	544	108	24.3	2中	2002, 2004, 2005
	ゆきまる	76	8.6	9.20	61	13.9	1012	503	100	22.4	2上	
	ほしのゆめ	73	8.10	9.24	69	14.0	942	497	83	22.5	2中	
道南農試	ほしまる	68	8.6	9.24	63	13.4	673	456	114	22.7	2中下	2002, 2004, 2005
	ゆきまる	71	8.5	9.21	58	12.3	708	401	100	20.3	2中下	
	ほしたろう	71	8.11	9.27	63	13.0	772	460	-	22.3	2中上	
	ほしのゆめ	73	8.8	9.27	64	12.9	700	403	100	21.9	2上	
北農研センター	ほしまる	84	8.8	9.26	67	14.5	932	451	107	22.3	2中下	2002~2005
	ゆきまる	76	8.8	9.24	61	13.5	915	421	100	21.3	1中下	
	ほしたろう	76	8.13	10.1	67	13.6	911	354	84	22.2	2中	
	ほしのゆめ	78	8.14	10.4	67	13.1	993	343	81	21.5	2中下	
北農研センター (乾田)	ほしまる	90	8.5	9.19	53	13.0	792	352	106	23.9	2上	2003~2005
	ゆきまる	85	8.6	9.19	50	12.6	760	333	100	22.0	1中下	
	ほしたろう	84	8.11	9.27	58	13.1	793	387	116	23.5	2中上	
	ほしのゆめ	86	8.12	9.29	57	12.9	868	373	112	22.7	2上	

注) 直播(湛水)栽培による成績

参照 1) 北海道農政部編, 平成18年普及奨励ならびに指導参考事項, 4-6 (2006)

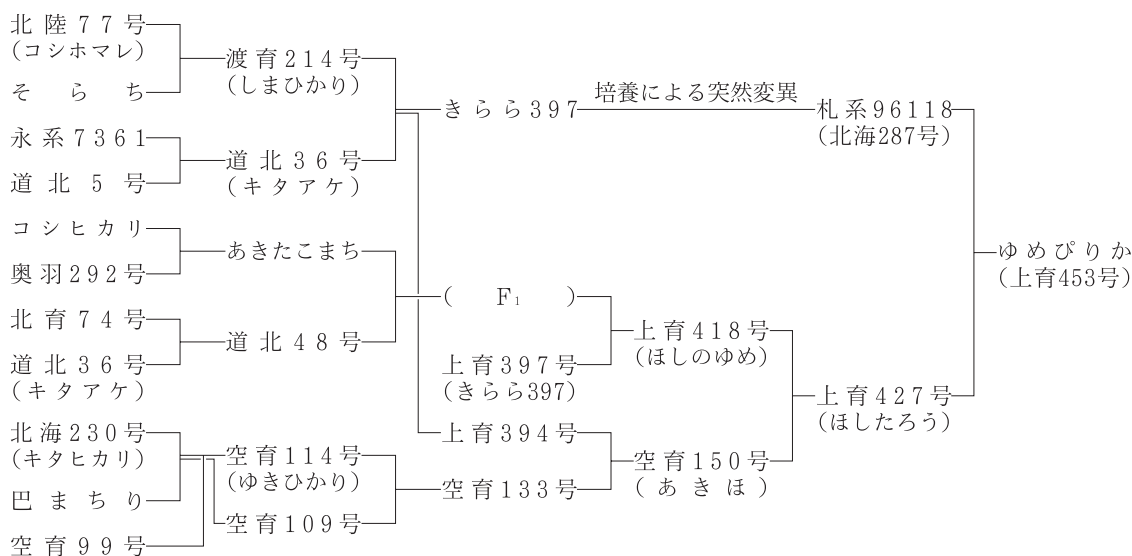
(3) ゆめぴりか(系統名 上育453号) 2008年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第60号
(種苗法) 第20613号

セールスポイント

アミロース含有率が適度に低い中生の粳品種で, 極良食味である。収量性は対照品種より高く, 割刈はやや少ない。

来歴 本品種は, 1997年に北海道立上川農業試験場において, 極良食味品種を目標に, 低アミロース良食味系統の「札系96118」を母, 多収良食味系統の「上育427号」(のちの「ほしたろう」)を父として人工交配を行い育成したもので, 1997年の冬期に温室にて養成したF1を蒔培養に供試した。1999年に「AC99189」, 2005年より「上育453号」の系統名で各種試験を行い, 2008年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次の通りである。



特性概要

1. 稈長は「おぼろづき」よりやや長く「ほしのゆめ」並のやや短で、穂長は「おぼろづき」よりやや短く「ほしのゆめ」よりやや長いやや短である。穂数は「おぼろづき」よりやや多く、「ほしのゆめ」よりやや少なく、草型は穂数型である。ふ色およびふ先色は黄白で、短芒を稀に生じる。割粃の発生は「おぼろづき」よりやや少なく「ほしのゆめ」より少ない。
2. 出穂期は「おぼろづき」、「ほしのゆめ」並の中生の早であり、早期異常出穂をしにくい傾向がある。成熟期は「おぼろづき」、「ほしのゆめ」よりやや遅い、中生の早である。
3. 耐倒伏性は「おぼろづき」、「ほしのゆめ」よりやや劣る。障害型耐冷性は「おぼろづき」、「ほしのゆめ」にわずかに劣るやや強～強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は*Pii*, *Pik*と推定され、葉いもち圃場抵抗性はやや弱、穂いもち圃場抵抗性は、やや弱～中である。玄米収量は「おぼろづき」、「ほしのゆめ」より多収である。
4. 玄米千粒重は「おぼろづき」、「ほしのゆめ」よりやや重く、粒大は「おぼろづき」、「ほしのゆめ」と同

等である。玄米白度は「おぼろづき」並で「ほしのゆめ」より高く、玄米透明度は「ほしのゆめ」並である。玄米品質および検査等級は「ほしのゆめ」にやや劣る。炊飯米の食味は「ほしのゆめ」に明らかに優り、「おぼろづき」並かやや優り良好である。食味関連成分のアミロース含有率は「おぼろづき」より2～3ポイント程度高く、「ほしのゆめ」より5～6ポイント程度低い。白米蛋白質含量率は「おぼろづき」より低く、「ほしのゆめ」並である。

栽培適地と奨励態度

上川（名寄市風連町以南）、留萌（中南部）、空知、石狩、後志、胆振、日高、渡島、および檜山各振興局管内の「おぼろづき」の全てと、「ほしのゆめ」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意として、穂ばらみ期耐冷性はやや強～強であるが十分とは言えないため、前歴期間および冷害危険期にかけて深水管理を徹底する。いもち病耐病性が十分でないため、発生予察に留意し、適切な防除を徹底する。耐倒伏性が不十分なので「北海道施肥標準」を遵守し、多肥栽培は厳に慎む。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	ゆめぴりか	7.25	9.13	65	16.5	760	628	108	22.2	1下	2005～2007
	おぼろづき	7.24	9.12	60	17.2	735	584	100	21.8	1中下	
	ほしのゆめ	7.25	9.11	65	15.7	759	588	101	22.1	1中下	
中 央 農 試	ゆめぴりか	8. 4	9.16	68	16.1	870	554	106	21.6	1中下	2005～2007
	おぼろづき	8. 4	9.14	65	17.5	819	522	100	21.0	1中	
	ほしのゆめ	8. 4	9.13	69	15.0	820	537	103	21.2	1中下	
道 南 農 試	ゆめぴりか	8. 2	9.17	64	16.5	611	423	114	21.3	1下	2005～2007
	おぼろづき	8. 2	9.17	66	16.4	628	371	100	20.2	2上	
	ほしのゆめ	8. 2	9.16	69	15.4	704	434	117	20.7	1下	
北 農 研 セ ン タ ー	ゆめぴりか	8. 1	9.15	66	16.2	619	559	115	21.7	1中下	2005～2007
	おぼろづき	8. 2	9.14	66	16.5	608	487	100	20.8	1中下	
	ほしのゆめ	8. 1	9.14	68	15.2	649	544	112	21.4	1下	

参照 1) 北海道農政部編，平成20年普及奨励ならびに指導参考事項，1-4（2008）

- (4) **きたくりん**（系統名 空育172号）2012年
登録番号：（北海道）水稻北海道うち第62号
（種苗法）第 号

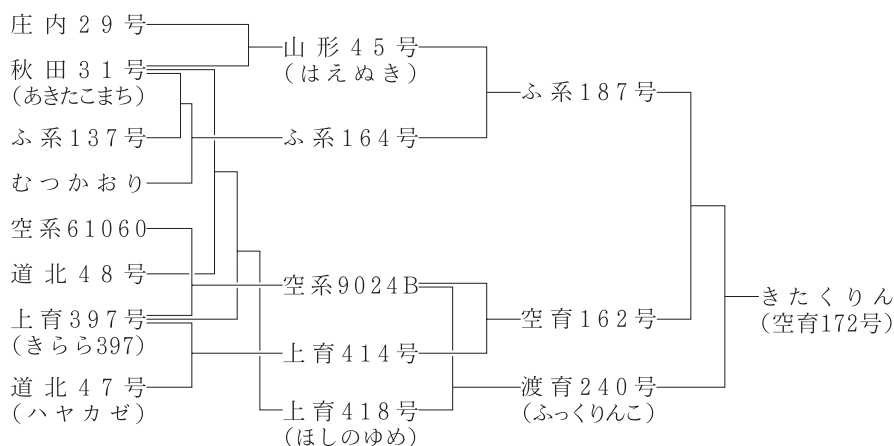
セールスポイント

いもち病抵抗性が強く本田防除が不要である。割粃が少ない。食味は良好である。

来歴 本品種は1999年に北海道立道南農業試験場（現北海道立総合研究機構道南農業試験場。以下、道南農試と略）において、道南地域向け耐病良食味品種の育成を目標に、青森県農業試験場藤坂支場（現 青森県農林総合研究センター藤坂稲作研究部）育成の耐病良食味系統「ふ系187号」を母，耐病良食味系統「空育162号」を父として行われた交配後代のF1を母とし，良食味系統「渡育240号」（のちの「ふっくりんこ」）を父とした人工

交配の雑種後代から育成された。2003年より北海道立中央農業試験場（現 北海道立総合研究機構中央農業試験場。以下、中央農試と略）の現地選抜系統として、「空

系D03095」、2005年より「空育172号」の系統名で各種試験を行い、2012年に北海道優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「ななつぼし」よりやや短く、穂数は並で、草型は“穂数型”に属する。ふ色およびふ先色は“黄白”，芒性は“稀短”。粒着密度は「ななつぼし」並みの“中”である。割削の発生は、「ななつぼし」より少ない“少”。
2. 出穂期は「ななつぼし」より遅い“中生の中”。成熟期は「ななつぼし」より遅い“中生の中”。
3. 耐冷性は「ななつぼし」並の“強”。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPi-a.iと推定され、いもち病抵抗性は葉いもちが「ななつぼし」に優る“強”，穂いもちは「ななつぼし」に優る“やや強～強”。耐倒伏性は「ななつぼし」よりやや強い“やや弱～中”。収量は「ななつぼし」並。
4. 玄米の粒形は“やや細長”。玄米の大きさは“やや大”。玄米の粒厚は「ななつぼし」よりやや薄い。玄米の千粒重は「ななつぼし」より重い。玄米の色沢は“やや淡”，玄米の光沢は“やや大”。玄米品質は「ななつぼし」よりやや劣る“中上”。玄米白度および白米白度は「ななつぼし」より高い。
5. アミロース含有率は、「ななつぼし」より高く，タ

ンパク質含有率は「ななつぼし」よりやや低い。食味は、「ななつぼし」並からやや優る“上下”。

栽培適地と奨励態度

北空知（雨竜町，北竜町，沼田町を除く），中空知（上砂川町，歌志内市を除く），南空知（岩見沢市，三笠市，美唄市，月形町），後志（共和町，岩内町），胆振（豊浦町，洞爺湖町，壮瞥町，伊達市），渡島（森町，八雲町八雲を除く），檜山およびこれに準ずる良地帯において「ななつぼし」の一部に置き換えて栽培する。

栽培上の注意は，玄米等級がやや劣るため，その主要因である白未熟粒の発生を助長しないよう「北海道施肥標準」を遵守し多肥栽培は厳に慎む。また，発生が多い場合は必要に応じて色彩選別を行う。熟期がやや遅いので適期移植に努め，側条施肥など生育を促進する栽培法を励行する。周囲にいもち病多発圃場等感染源がある場合は，基幹防除を実施する。また，採種圃におけるいもち病防除対策は既存品種に準じる（詳細は平成24年指導参考事項「圃場抵抗性に優れた水稻「空育172号」のいもち病防除対策」を参照）。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当たり		玄米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中央農試	きたくりん	8.03	9.21	71	16.0	762	563	98	22.0	1下	2005～2011
	ななつぼし	8.01	9.17	70	16.7	767	577	100	21.6	1下	
	きらら397	8.03	9.21	68	16.4	769	575	100	22.2	1下	
	ふっくりんこ	8.05	9.22	73	16.8	817	581	101	22.5	1下	
道南農試	きたくりん	8.01	9.15	69	14.9	610	481	98	21.9	1下	2005～2011
	ななつぼし	7.31	9.15	71	16.2	601	489	100	21.5	1下	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10 a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道 南 農 試	きらら397	7.31	9.15	64	16.1	608	474	97	22.3	1下	2005~2011
	ふっくりんこ	8.03	9.17	73	15.6	659	483	99	22.4	1下	
上 川 農 試	きたくりん	7.27	9.17	65	16.5	681	560	93	22.2	2上	2005~2011
	ななつぼし	7.25	9.16	67	16.5	642	602	100	21.9	2上	
	きらら397	7.26	9.18	61	16.2	664	569	94	22.3	2上	

注) 上川農試は2006, 2007年試験実施無し。

参照 1) 北海道農政部編, 平成24年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-4 (2012)

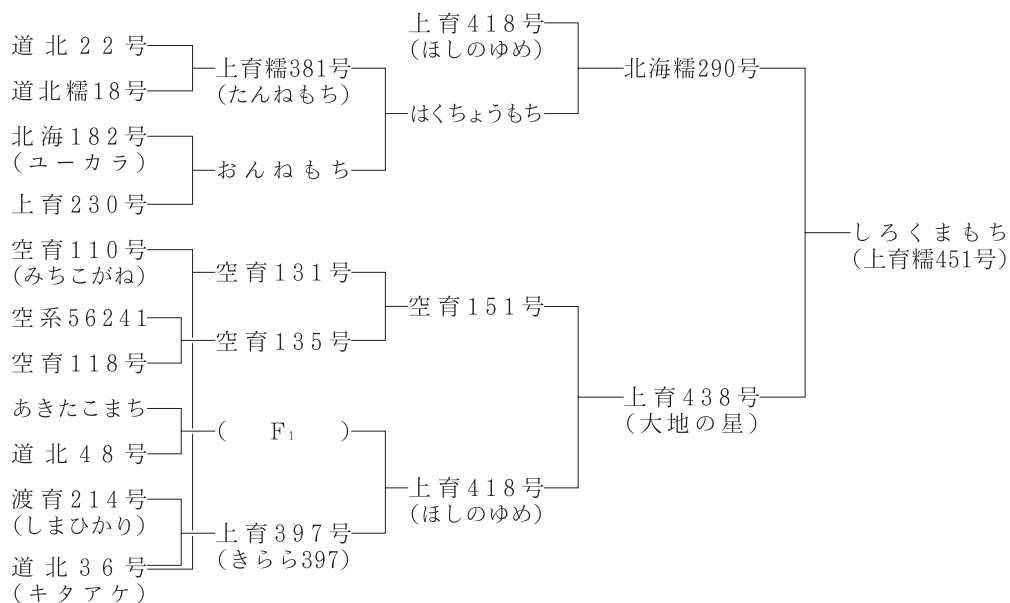
< 糯 種 >

- (1) しろくまもち (系統名 上育糯451号) 2007年
 登録番号: (北海道) 水稻北海道もち第59号
 (農水省) 水稻農林糯427号
 (種苗法) 第19268号

来歴 本品種は、2000年に北海道立上川農業試験場において、硬化性の高い糯品種の育成を目標に、高硬化性系統の「北海糯290号」を母、早生多収系統の「上育438号」(のちの「大地の星」)を父として人工交配を行い育成されたもので、2000年の冬期に温室にて養成したF1を蒔培養に供試した。2002年に「AC糯02025」、2004年より「上育糯451号」の系統名で各種試験を行い、2007年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次の通りである。

セールスポイント

もち硬化性が高く加工適性に優れ、穂ばらみ期耐冷性が極強である。



特性概要

1. 稈長は「はくちょうもち」よりやや長く、「風の子もち」よりやや短く、穂長は「はくちょうもち」、「風の子もち」より短い。穂数は「はくちょうもち」、「風の子もち」より多く、草型は穂数型である。ふ色およびふ先色は黄白で、極短芒を稀に生じる。
2. 出穂期は「はくちょうもち」、「風の子もち」より早い早生の早で、早生種のため「たんねもち」並に早期異常出穂をし易い。成熟期は「はくちょうもち」並からやや早く、「風の子もち」より早い早生の中である。
3. 穂ばらみ期耐冷性は「はくちょうもち」、「風の子もち」に優る極強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPia, Piiと推定され、葉いもち圃場抵抗性はやや弱く、穂いもち圃場抵抗性はやや弱～中である。玄米収量は「はくちょうもち」よりやや劣る。
4. 玄米千粒重は「はくちょうもち」、「風の子もち」より軽く、粒大は「はくちょうもち」、「風の子もち」より小さいやや小である。割粳の発生は「はくちょうもち」、「風の子もち」よりやや多い中である。玄米品質および検査等級は「はくちょうもち」、「風の子もち」

並である。玄米白度は「はくちょうもち」並で、「風の子もち」よりやや低く、白米白度は「はくちょうもち」、「風の子もち」並である。紅変米の発生は、「はくちょうもち」、「風の子もち」よりやや多い。食味は、おこわでは「はくちょうもち」並からやや優り、つきもちでは「はくちょうもち」にやや優る。食味関連成分の白米蛋白質含有率は「はくちょうもち」並で、つきもちの硬化性は「はくちょうもち」、「風の子もち」より高い。RVAピーク温度は「はくちょうもち」、「風の子もち」より高い。RVA最高粘度は「はくちょうもち」、「風の子もち」より低い。

栽培適地と奨励態度

オホーツク、上川、留萌、空知、後志、渡島各振興局管内において栽培する。栽培上の注意は、成苗栽培では早期異常出穂の恐れがあるので、育苗ハウスの適正な温度管理に努め、育苗日数を遵守する。初期の分けつ性がやや劣るため、側条施肥などにより初期生育を促進できる栽培法に努める。いもち病耐病性が弱いため、適期防除を徹底する。刈り遅れによる品質低下が生じやすいため、適期刈り取りに努める。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	しろくまもち	7.21	9. 7	61	13.5	649	549	106	20.3	1中下	2004~2006
	はくちょうもち	7.24	9. 8	61	15.3	549	518	100	20.6	1下	
	風の子もち	7.26	9.13	66	17.0	576	568	110	22.0	1中下	
中 央 農 試	しろくまもち	7.30	9. 9	61	14.3	733	506	96	19.9	2上	2004~2006
	はくちょうもち	7.31	9.10	57	15.1	689	529	100	20.4	2中	
	風の子もち	8. 1	9.11	62	16.3	630	575	109	22.2	1下	
道 南 農 試	しろくまもち	8. 1	9.13	66	14.7	515	411	97	19.7	2上	2005~2006
	はくちょうもち	8. 1	9.12	65	15.2	448	424	100	20.5	2中上	
	風の子もち	8. 2	9.17	69	17.1	437	452	107	21.4	2上	
北 農 研 セ ン タ ー	しろくまもち	7.25	9. 8	65	14.2	649	539	92	19.7	2上	2004~2005
	はくちょうもち	7.29	9. 9	64	15.4	551	589	100	20.6	1	
	風の子もち	7.30	9.10	69	17.1	525	605	103	21.9	2中上	

参照 1) 北海道農政部編, 平成19年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2007)

(2) きたゆきもち (系統名上育糯450号) 2009年

登録番号: (北海道) 水稻北海道もち第61号
(農水省) 水稻農林434号
(種苗法) 第20874号

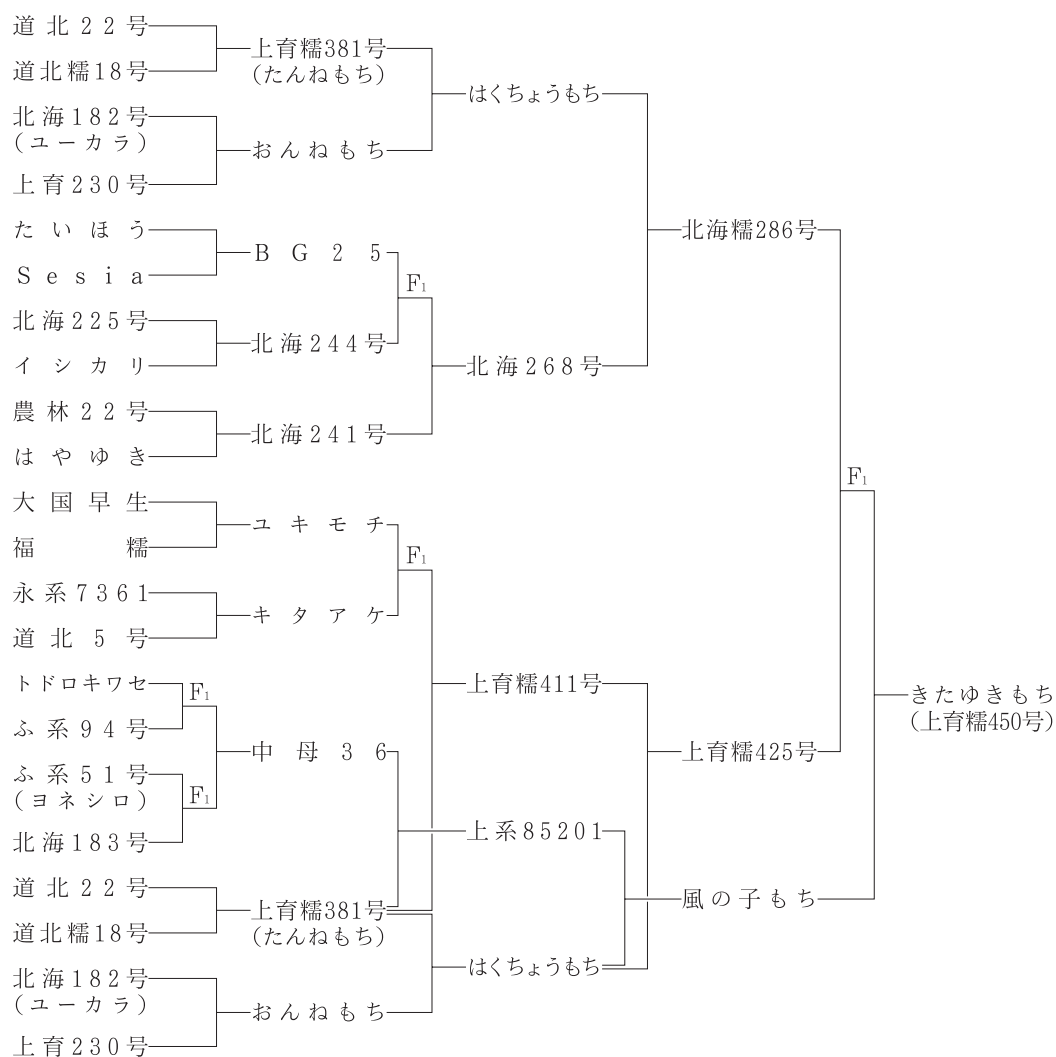
セールスポイント

穂ばらみ期耐冷性が極強の早生品種で、「はくちょうもち」より多収で、玄米白度が高く、白米白度がやや高い。さらに、つきもちとおこわでの食味がやや優る。

来歴 本品種は、1998年に北海道立上川農業試験場において、良質耐冷性糯品種の育成を目標に、「北海糯286号」(良質, 良食味)と「上育糯425号」(多収, 耐冷)のF1を母、「風の子もち」(良質)を父として人工交配を行った雑種後代から育成された。2002年より「上系糯02199」, 2004年より「上育糯450号」の系統名で各種の試験を行い、2009年に優良品種となった。なお、本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 稈長は「はくちょうもち」よりやや長く、「風の子もち」よりわずかに短い。穂長は「はくちょうもち」より長く、「風の子もち」よりやや長い。穂数は「はくちょうもち」よりやや少なく、「風の子もち」並で、草型は偏穂数型である。一穂初数は「はくちょうもち」より多く、「風の子もち」よりやや少ない。穎色およびふ先色は黄白で、極短芒を稀に生じる。
2. 出穂期は「はくちょうもち」よりやや早く、「風の子もち」より早い早生の晩で、成熟期は「はくちょうもち」並で、「風の子もち」より早い早生の中である。耐倒伏性は「はくちょうもち」よりわずかに劣り、「風の子もち」並のやや強である。
3. 穂ばらみ期耐冷性は「はくちょうもち」, 「風の子もち」より強い極強, 開花期耐冷性は「はくちょうもち」, 「風の子もち」よりわずかに強い中~やや強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型はPiaと推定され、葉いもち圃場抵抗性および穂いもち圃場抵抗性は、それぞ



れ「はくちょうもち」,「風の子もち」より弱いやや弱である。玄米収量は「はくちょうもち」より多く,「風の子もち」よりやや少ない。

4. 粒厚は「はくちょうもち」よりわずかに厚く,「風の子もち」よりやや薄い。千粒重は「はくちょうもち」より重く,「風の子もち」並である。割削の発生は「はくちょうもち」,「風の子もち」より少ない少である。玄米品質は「はくちょうもち」,「風の子もち」並で,検査等級は「はくちょうもち」,「風の子もち」にやや優る。玄米白度は「はくちょうもち」,「風の子もち」より高く,白米白度は「はくちょうもち」よりやや高く,「風の子もち」よりわずかに高い。紅変米の発生は「はくちょうもち」,「風の子もち」並である。

食味は,おこわでは「はくちょうもち」,「風の子もち」にやや優り,つきもちでは「はくちょうもち」にやや優り,「風の子もち」にわずかに優る。食味関連成分の白米蛋白質含有率は「はくちょうもち」並で,「風の子もち」よりやや高い。もち硬化性は「はくちょうもち」並で,「風の子もち」よりやや高い。

栽培適地と奨励態度

オホーツク,上川,留萌,空知,後志,渡島,十勝各振興局管内およびこれに準ずる地帯に,「風の子もち」の全てと「はくちょうもち」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意は,いもち病耐病性が不十分であるため,発生予察に留意し,適切な防除に努める。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	きたゆきもち	7.23	9.11	65	17.3	615	525	106	21.8	1中下	2004~2008
	はくちょうもち	7.25	9.11	60	15.4	599	507	100	20.5	2上	
	風の子もち	7.26	9.16	66	17.3	592	557	109	21.8	2上	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中 央 農 試	きたゆきもち	7.29	9. 9	62	17.1	678	574	104	21.6	1中下	2004～2008
	はくちょうもち	7.30	9. 9	58	15.4	707	539	100	20.2	2中下	
	風の子もち	7.31	9.11	63	16.8	651	597	112	21.9	2上	
道 南 農 試	きたゆきもち	7.29	9.12	66	17.2	491	483	109	21.1	1下	2005～2008
	はくちょうもち	7.30	9.11	63	14.9	512	444	100	20.4	2中	
	風の子もち	7.31	9.14	67	16.5	487	491	111	21.4	2中上	
北 農 研 セ ン タ ー	きたゆきもち	7.27	9. 8	68	17.0	513	559	95	21.4	1下	2004～2005
	はくちょうもち	7.29	9. 9	64	15.4	551	589	100	20.6	1	
	風の子もち	7.30	9.10	69	17.1	525	605	103	21.9	2中上	

参照 1) 北海道農政部編, 平成21年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-4 (2009)

(3) きたふくもち (系統名上育糯464号) 2013年

登録番号: (北海道) 水稻北海道もち第63号

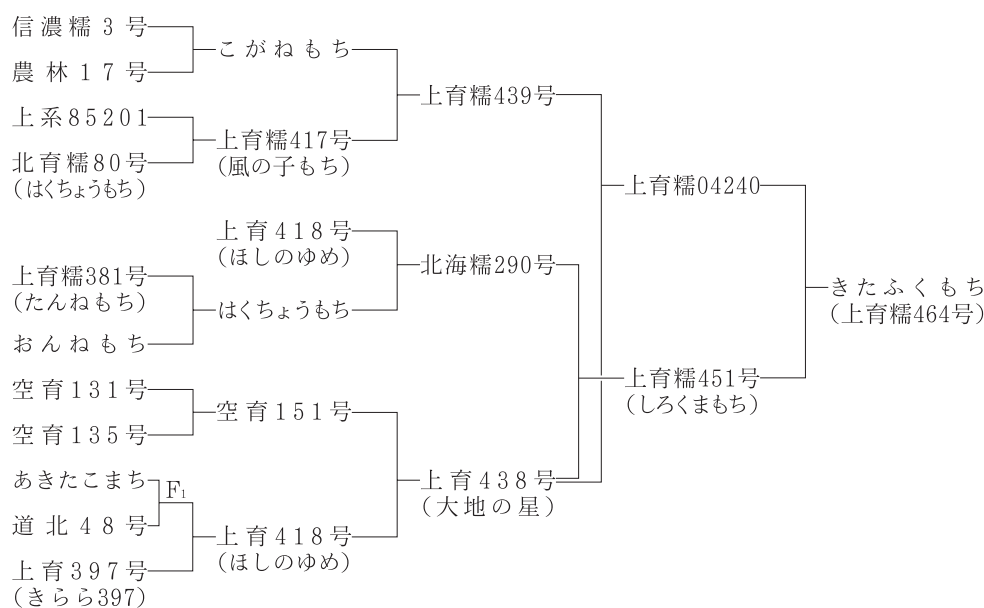
(農水省) 水稻農林 号

(種苗法) 第 号

セールスポイント

もち生地の硬化性が高く, 穂ばらみ期耐冷性と開花期耐冷性が極強で, 多収である。

来歴 本品種は2005年に北海道立上川農業試験場において, 硬化性の高い糯品種の育成を目標に, 「上系糯04240」を母, 「上育糯451号」(のちの「しろくまもち」) を父として人工交配を行った雑種後代から育成された。2008年に「上系08253」, 2010年より「上育糯464号」の系統名で各種の試験を行い, 2013年に優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。



特性概要

1. 稈長は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」並で, 穂長は「しろくまもち」よりやや長く「はくちょうもち」より短い。穂数は「しろくまもち」並で「はくちょうもち」より多く, 草型は穂数型に属する。一穂粒数は「しろくまもち」並で「はくちょうもち」より少ない。穎色は黄白, ふ先色は褐で極短芒を稀に生じる。
2. 出穂期は「しろくまもち」より遅く「はくちょうもち」より早い早生の中で, 成熟期は「しろくまもち」,

「はくちょうもち」より遅い早生の晩である。耐倒伏性は「しろくまもち」に近く「はくちょうもち」より弱い中である。

3. 穂ばらみ期耐冷性は「しろくまもち」並で「はくちょうもち」より強い極強, 開花期耐冷性は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」より強い極強である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は *Pia*, *Pii* と推定され, 葉いもち圃場抵抗性は「しろくまもち」より強く「はくちょうもち」より弱い中, 穂いもち圃場抵抗性は「しろく

まもち」より強く「はくちょうもち」より弱い中である。玄米収量は「しろくまもち」より多く「はくちょうもち」よりやや多い。

4. 粒厚は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」よりやや厚く, 千粒重は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」より重い。割粳は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」よりやや多い中である。玄米品質および検査等級は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」並である。玄米白度は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」よりやや高く, 白米白度は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」並である。紅変米の発生は「しろくまもち」並で「はくちょうもち」より多い。食味は, おこわでは「しろくまもち」, 「はくちょうもち」並で, つきもちでは「しろくまもち」並で「はくちょうもち」より優る。食味

関連成分の白米蛋白質含有率は「しろくまもち」, 「はくちょうもち」より低い。つきもちの硬化性は「しろくまもち」より高く「はくちょうもち」よりさらに高い。

栽培適地と奨励態度

オホーツク, 上川, 留萌, 空知, 後志, 渡島, 十勝各振興局管内およびこれに準ずる地帯に「しろくまもち」の全てと「はくちょうもち」の一部に換えて栽培する。栽培上の注意は, 割粳がやや多いので斑点米や紅変米などの被害粒による品質低下を避けるため病害虫防除を適正に行うとともに, 適期刈り取りを励行する。早期異常出穂の恐れがあるので, 育苗ハウスの適正な温度管理に努め, 基準の育苗日数を遵守する。

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
上 川 農 試	きたふくもち	7.19	9. 7	60	14.7	708	562	103	22.3	2上	2010~2012
	しろくまもち	7.18	9. 4	61	14.4	706	545	100	20.6	1下	
	はくちょうもち	7.23	9. 5	61	15.9	590	531	97	20.9	1下	
中 央 農 試	きたふくもち	7.26	9.12	63	14.5	681	582	110	22.7	2下	2010~2012
	しろくまもち	7.24	9.10	63	13.7	669	527	100	20.9	2中	
	はくちょうもち	7.26	9. 9	60	15.0	612	529	100	21.3	2下	
普及見込み地帯	きたふくもち	7.28	9.11	64	14.3	657	575	110	22.4	1下	2011~2012
	しろくまもち	7.27	9. 9	64	14.0	680	523	100	20.6	1下	
	はくちょうもち	7.29	9.10	63	15.4	586	555	106	20.9	1下	

注) 普及見込み地帯は「きたふくもち」, 「しろくまもち」は20カ所, 「はくちょうもち」は18カ所の平均。

参照 1) 北海道農政部編, 平成25年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2013)

<酒 種>

(1) 彗星 (系統名 空育酒170号) 2006年

登録番号: (北海道) 水稻北海道うち第58号
(種苗法) 第14300号

セールスポイント

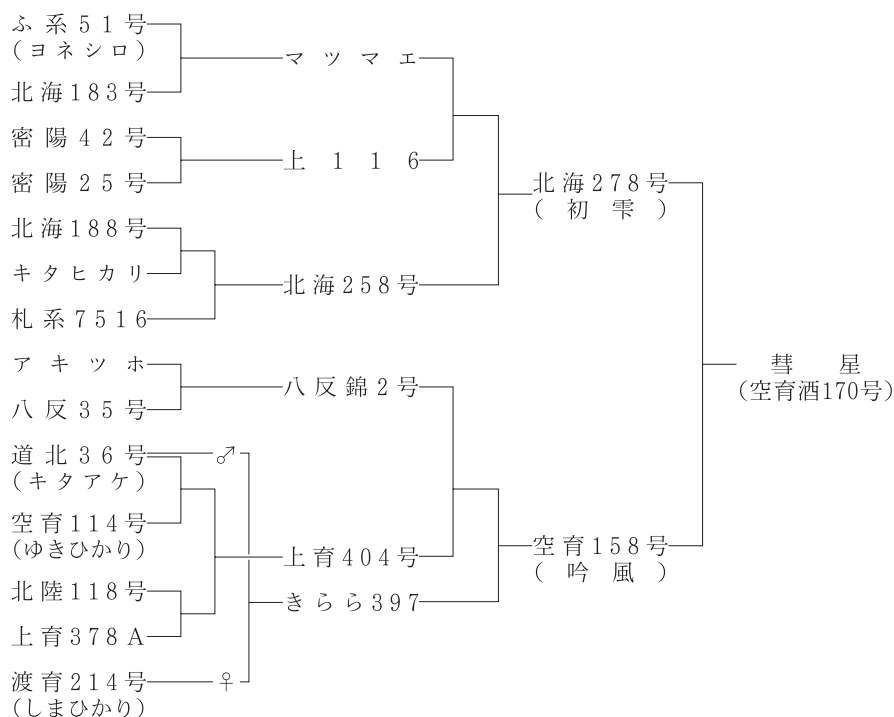
酒米に求められる千粒重が重く蛋白質含有率が低い。
多収であり耐冷性が強い。

来歴 本品種は1996年に北海道立中央農業試験場において, 道内栽培向け酒造好適米品種の育成を目標に, 耐冷性の強い酒造好適米系統「北海278号」(のちの「初雫」)を母とし, 心白のある酒造好適米系統「空育158号」(のちの「吟風」)を父として行われた人工交配の雑種後代から育成された。2000年に「空系00373」, 2003年より「空育酒170号」の系統名で各種試験を行い2006年に北海

道優良品種となった。なお, 本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 稈長は「吟風」「きらら397」並で, 穂長は「初雫」より長く, 「吟風」「きらら397」より短い。穂数は「きらら397」より少なく「吟風」「初雫」より多い。草型は「吟風」「初雫」と同じ“中間型”。ふ色およびふ先色は“黄白”で, 少短芒を有する。粒着密度は「吟風」「彗星」並みの“中”である。割粳の発生は「吟風」より多く「初雫」「きらら397」より少ない。
2. 出穂期は「吟風」「初雫」「きらら397」並の“中生の早”で, 成熟期も「きらら397」「吟風」「初雫」並の“中生の早”である。
3. 障害型耐冷性は, 穂ばらみ期の耐冷性が「吟風」「きらら397」より強く, 「初雫」より弱い“強”であるが, 開花期耐冷性は「きらら397」より弱く「吟風」



並の“極弱”である。いもち病真性抵抗性遺伝子型は“*Pi-k*”と推定される。葉いもち抵抗性および穂いもち抵抗性は「きらら397」より強い“やや強”である。耐倒伏性は「吟風」並の“やや強～強”である。収量は「初雫」並に多収である。

4. 玄米の粒形は“中”，大きさは「吟風」「初雫」並の“やや大”。千粒重は「吟風」「初雫」「きらら397」より重い。心白の発現は「吟風」より少なく小さい。玄米品質は「吟風」並の“中上”。白米のアミロース含有率は「吟風」よりやや高く「初雫」並。蛋白質含有率は「吟風」より低く「初雫」「きらら397」並である。

酒造適性について、「吟風」と比べると心白発現率が劣る。精米適性は、「吟風」に比べ精米時間がやや長い傾向がある。無効精米率，碎米率はやや高い。浸

漬吸水率はやや低く，吸水時間は少し長めで，硬い印象がもたれる。原料処理，蒸米および製麴作業性が「吟風」並に良好である。官能試験の結果，「吟風」が柔らかい酒質を好む業者に評価されるのに対し，きれいなタイプの酒質を好む業者に評価される。

栽培適地と奨励態度

上川（土別市以南），留萌（中南部），空知，石狩，後志，胆振，日高，渡島，檜山各支庁管内の低蛋白質米安定生産が可能な良地帯で「初雫」の全部，および「吟風」と「きらら397」の一部に置き換えて栽培する。栽培上の注意事項は，初期分けつが少ない傾向にあるので，栽培基準の栽植密度を守り，側条施肥など初期生育を促進する栽培法を心がける。また，蛋白質含有率が高いと酒質を低下させる原因となるので，多肥栽培は避ける。

試験場名	品種名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a当たり		玄米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
中央農試	彗星	8.01	9.14	63	16.3	676	670	102	26.8	1	2004~2005
	吟風	8.02	9.15	63	16.2	601	656	100	25.0	1	
	初雫	8.02	9.14	66	15.6	604	652	99	25.1	1	
	きらら397	8.02	9.18	64	16.3	774	614	94	23.0	1	
上川農試	彗星	7.24	9.09	58	16.0	502	580	110	25.2	1	2004~2005
	吟風	7.25	9.09	56	16.1	492	525	100	24.3	1	
	初雫	7.24	9.09	62	15.3	501	566	108	24.3	1	
	きらら397	7.25	9.10	58	15.8	683	595	113	22.2	1	
道南農試	彗星	7.29	9.12	65	17.0	424	481	118	25.2	1	2004~2005
	吟風	7.28	9.14	63	16.2	420	409	100	23.4	1	

試験場名	品 種 名	出穂期 (月日)	成熟期 (月日)	成熟期における			10a 当たり		玄 米		試験年次
				稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本)	玄米重 (kg)	左比 (%)	千粒重 (g)	等級	
道 南 農 試	初 雫	7.30	9.12	67	15.5	382	446	109	23.8	1	2004~2005
	きらら397	7.30	9.15	64	16.6	557	470	115	22.2	1	
北 農 研	彗 星	7.30	9.12	66	16.7	490	659	110	26.2	特	2004~2005
	吟 風	7.29	9.11	64	16.8	523	599	100	24.0	1	
	初 雫	7.30	9.10	70	16.9	517	643	107	23.7	1	
	きらら397	7.30	9.13	63	16.4	612	601	100	22.5	2上	

参照 1) 北海道農政部編, 平成18年普及奨励ならびに指導参考事項, 1-3 (2006)
2) 田中 一生 等, 北海道立総合研究機構集報. 95, 1-12 (2011).

2. 小麦

※専門用語の解説

デオキシニバレノール (DON) : 赤かび病菌の特定の種 (*Fusarium graminearum*) が産生するかび毒。

フレッケン: 遺伝的特性として, 葉身に小斑点を生ずる症状で, 発生程度に品種間差があることが知られている。

ミリングスコア: 製粉歩留と灰分含量から算出される, 製粉特性を示す指標値。

ファリノグラム: 専用機器 (ファリノグラフ) によって得られる, 小麦粉を加水して一定の硬さになるように比較的穏やかに捏ね, さらにこね続けたときの生地の変化的変化を記したグラフ。一定の硬さの生地を形成

するために必要な水の量から, 粉の吸水率を知ることが出来る。

バリロメーターバリュウ: ファリノグラムから得られる値。一般に, 強力的な性質の小麦粉は大きい値, 薄力的な性質の小麦粉は小さい値となる。

エキステンソグラム: 専用機器 (エキステンソグラフ) によって得られる, 一定の硬さに調整した生地を伸ばして切れるまでの抵抗力の変化を記したグラフ。

ミキソグラム: 専用機器 (ミキソグラフ) によって得られる, 小麦粉を加水して比較的強く捏ねたときの生地の硬さの変化を記したグラフ。

- (1) **きたほなみ** (系統名 北見81号) 2006年
登録番号: (北海道) 小麦北海道秋第18号
(農水省) 小麦農林168号
(種苗法) 第18438号

セールスポイント

灰分含量が少なく製粉性に優れ, 粉色及び製めん適性が優れ, 多収で穂発芽耐性に優れた秋まき品種である。

来歴 本品種は, 1994年に北海道立北見農業試験場において, 「北見72号」(後の「きたもえ」) を母, 「北系1660」を父として人工交配を行い育成したもので, 2001年より「北系1764」, 2002年より「北見81号」の系統名で各種試験を行い2006年に優良品種となった。本品種の系譜は次のとおりである。

特性概要

1. 叢性は直立である。稈長はやや短, 稈の細太はやや太で「ホクシン」と同程度, ワックスの多少は少であ

る。葉身の下垂度は「ホクシン」よりやや小さく, 穂型は棒状, ふ色は淡黄である。

2. 粒形は中, 粒の大小はやや大, 粒色は黄褐で, 千粒重はやや大, 容積重, 原麦粒の見かけの品質は「ホクシン」と同等である。

3. 出穂期及び成熟期はやや早生に属するが, 「ホクシン」と比較して出穂期で1日, 成熟期で2日遅い。

4. 耐倒伏性は「ホクシン」並, 耐寒性, 耐雪性は「ホクシン」並, コムギ縞萎縮病抵抗性はやや弱, 赤かび病抵抗性は中, 赤さび病抵抗性はやや強, うどんこ病抵抗性はやや強である。穂発芽性は「ホクシン」より強くやや難である。

5. 子実重は「ホクシン」より優れる多である。

6. 製粉歩留はやや高, ミリングスコアは高でいずれも「ホクシン」より優れる。粉色は「ホクシン」より優れ, 粉質は粉状質, 60%粉の粗蛋白質含量は「ホクシン」よりやや低い。製めん適性は「ホクシン」と比較して色は優れ, 粘弾性は同程度で優れる。